2026 AUTOBACS SUPER GT Round7
AUTOPOLIS GT 3Hours RACE

apr LC500ｈ GT





2026 AUTOBACS SUPER GT Round7 AUTOPOLIS GT 3Hours RACE

開催地：オートポリス（大分県）／4.674km

10月17日（予選）
天候：晴れ コースコンディション：ドライ 観客数：12,000人

10月18日（決勝）
天候：晴れ コースコンディション：ドライ 観客数：18,000人

apr Racing Constructor

連続入賞途切れる。コンストラクターとして、実走行データを次へつなぐ一戦に

第3戦マレーシア大会が中東情勢の不透明さから2027年以降に延期され、その代替として最終戦もてぎ大会が2連戦となった。このため第7戦オートポリスは今季“6戦目”の開催となり、サクセスウェイト（SW）はフル搭載。31号車 apr LC500h GTは80kg（ウェイト50kg＋サクセス給油リストリクター2ランクダウン）を背負って戦う。

オートポリスは国内屈指のタイヤに厳しいサーキットだ。10月中旬は寒暖差が大きく、冷え込めばピックアップにも悩まされる。山あいで天候が急変する可能性もあり、タイヤ選択の難易度は高い。

2回給油義務の3時間レースという条件も加わるが、31号車は2023年に3位表彰台を獲得した相性の良いコース。今回は小高一斗、小山美姫に加え、第3ドライバーにチャーリー・ブルツを起用し、チャレンジングな一戦に挑む。

公式練習／14位　10月17日（土）10:30～12:04

公式練習開始時の気温は21℃、路面温度は23℃。秋晴れの下、レースウィーク最初のセッションがスタートした。

走り出しでステアリングを握ったのは小高。持ち込みのタイヤとセットアップを確認したが、フィーリングは芳しくなく、ピットインを繰り返してセッティングのアジャストを続けた。31号車は小高もドライブした2023年のオートポリスで3位表彰台を獲得したが、2025年からはレギュレーション変更によりフロントタイヤが小径化している。今回の持ち込みセッティングは、昨年をベースに2023年に好感触だったポイントを盛り込んだものだったが、タイヤサイズの違いと重量増による影響は想定以上で、マッチしなかった。そこで今季これまでの仕様をベースに、方向性を変えて対処することにした。この作業に時間を要し、小高のベストタイムは7周目に記録した1分46秒000にとどまった。

15周目からは小山が乗り込み、持ち込みから大きく変えたセッティングでフィーリングが向上したことを確認。GT300専有走行の時間帯には、予選・決勝では使わないスペックのニュータイヤを履いて1分45秒496をマークし、公式練習は14位で終えた。なお、ブルツは12時15分から12時35分のサーキットサファリで走行し、GT300車両では初となるオートポリスの経験を積んだ。



公式予選　10月17日（土）
Q1 B／4位　14:48～14:58
Q2／13位　15:23～15:33

予選Q1 A組開始時のコンディションは気温23℃、路面温度29℃。31号車は、そこから18分後にスタートしたQ1 B組に出走した。

Q1を担当したのは小山。当初はアウトラップから1周のウォームアップを経て、計測3周目にアタックする予定だった。しかし、前走車に詰まってしまい、このプランを断念。早めの判断でその周はタイヤを労り、翌周にあらためてアタックを開始した。ここでマークした1分44秒315は、一時タイミングモニターのトップに立つ好タイム。その後、タイムを更新するライバルも現れたが、4番手でしっかりとQ2進出を果たした。

Q2は小高が担当。ライバルの動向やコース上での位置取りも踏まえ、ウォームアップを2周入れて、計測4周目にアタックに入った。だが、タイヤのピークグリップは1周前の3周目にあった。小高は1分44秒287と、順位は13番手。悔しい結果で予選を終えた。









小高一斗選手

「持ち込みのセットアップは、ちょっと今の重量には微妙な感じでした。過去のデータや今年のデータを見返して、いろいろと手を加えていって、フィーリングは良くなったと思います。予選Q2は僕のミスです。クルマ自体もタイヤも良かったのですが、アタックしたときにはタイヤのピークが過ぎていました。3周目にクリアラップが取れて予定通りにアタックできていれば、5～6番手のタイムは出せたと思います。オートポリスは、数年前までは僕たちのブリヂストンタイヤの相性が良かったのですが、最近はヨコハマタイヤが強いイメージです。それでも、明日の決勝はしっかりと追い上げていきたいと思います」



小山美姫選手

「公式練習で私が乗ったときのフィーリングは、小高選手が改善してくれたおかげでバランスは非常に良かったです。予選Q1は、過去に経験があるタイヤなので、車両もタイヤも不安はありませんでした。タイヤのピークは3周目にあったので、予定通りアタックできていれば、もっと速いタイムを出せたと思います。ただ、これまでは前に詰まったときに中途半端なアタックになり、タイヤを傷めてしまうことがありました。今回は早めに切り替えて、4周目のアタックに備えることができました。最終コーナーでは、ピークを過ぎたタイヤでアンダーステアが少し出てしまいましたが、Q1を突破するというタスクをクリアできましたし、タイヤについても学ぶことがあったので良かったです」



チャーリー・ブルツ選手

「僕はサーキットサファリの時間帯に走行しました。スーパーGTは第2戦富士以来、約5カ月ぶりに乗ったので、僕の目的は走行リズムを取り戻すことでした。オートポリスは今年、スーパーフォーミュラで走っていますが、悪天候のため決勝はキャンセルになってしまったので、コースのフィーリングを確認するためでもありました。ただ、サファリではバスや他車によるトラフィックも多く、実質的には3周程度しかクリアラップを走ることができませんでした。それでも、久しぶりにGT300のクルマに乗って、感覚を思い出せたのは良かったです。明日のレースでは周回を重ねてしっかり経験を積み、チームに貢献できるように頑張りたいですね」



金曽裕人監督

「持ち込みのセットアップには少し迷いがありました。結果として、小高選手がいなかった昨年のセッティングは、微妙だったという結論でした。公式練習で、セッティングの方向性をつかめたことで予選には前向きに臨めました。Q1の小山選手のアタックも素晴らしくQ2に進出してくれたので大満足です。今回のタイヤのピークは計測3周目にあり、そこでしっかりアタックするためのクリアラップを取れていれば、もっと速かったと思います。Q2の小高選手も同様で、一発勝負の予選ではタイヤのピークを使い切ることが大事ですね。決勝はサクセス給油リストリクターによって20秒のタイムロスがあるので、淡々と走って、10位から15位に入賞できるようにしたいです」

決勝レース（93周）／リタイア　10月18日（日）13:16～16:18

決勝日も快晴、気温25℃、路面温度33℃というコンディションのもと、3時間レースの幕が切って落とされた。

31号車のスタートドライバーは小山。フォーメーションラップからフィーリングの良さを感じていた。タイヤもしっかりと発動させ、スタート直後の1コーナーで前車のインに飛び込む。クロスラインで並ばれたが、3コーナーまでに抜き切り、ポジションをひとつ上げることに成功した。翌周の1コーナーでもさらに前車に並びかけたものの、半車身ほど弾き出される格好となり、抜くことはできなかった。オートポリスはグリップラインが1本しかなく、そこを外すとタイムを大きく失う。小山はリスクを避け、リフト＆コーストで燃費走行をしながらタイヤを労る走りに切り替えた。

小山は10番手争いの集団のなかで12番手を走行し、ペースよく前車を追い続けた。しかし、21周目の16コーナー手前で突如右フロントタイヤが脱落。コントロールを失ってスポンジバリアにクラッシュし、そのままレースを終えることになった。

原因はハブのトラブル。aprはコンストラクターとして多くのGTA-GT300車両を開発・製作しており、31号車には実走行による部品の走行距離（マイレージ）データを蓄積する役割もある。今回は、その耐久寿命の読み違いに課題があった。幸いにもクラッシュは軽度で、小山は自力でコクピットを降りている。

31号車としては今シーズン初のリタイアとなり、開幕からの連続入賞記録は途絶えてしまった。ドライバーランキングは13位、トップとの差は33ポイントに広がったが、次戦のもてぎ2連戦では、優勝とポールポジションのフルマークで52点を加算できる。最後まで諦めず、上位入賞を目指す戦いは続く。







小高一斗選手

「決勝未走行のためコメントはあまりないのですが、バランスもタイヤも良かったのでレースしたかったですね。次は２連戦なので、全力尽くします。」



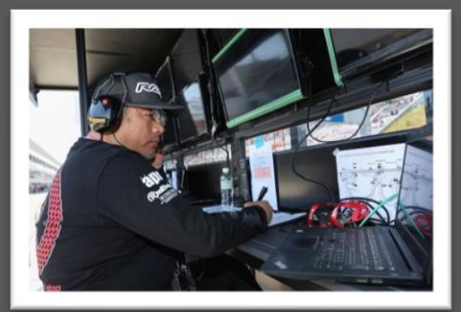
小山美姫選手

「クルマもタイヤも、すごく良い状態でした。通常は、燃料満タンのスタート直後はパフォーマンスが落ちますし、前走車の後ろに着くとダウンフォースが抜けてしまうので走りにくいのですが、今回はスタートからペースも良かったです。燃料とタイヤをセーブして余力を残しつつ、前車のタイヤがタレてきたときのオーバーテイクを狙っていました。クラッシュしたのは、次の周に仕掛けようと思っていたタイミングでしたが、自信を持って走れていたので最後まで戦いたかったです。今回ノーポイントだったのは悔しいですが、もてぎでは表彰台に上がって、ランキングを上げられるように頑張ります」



チャーリー・ブルツ選手

「GT300レースの難しさと、戦い方はしっかり見てきたしLC500ｈの扱い方も把握は出来ています。チャンスがあれば来年もこのチームの為に走りたいです」



金曽裕人監督

「皆さま、ご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。小山選手のペースも良く、戦略としてもぴたりとはまる作戦を考えていたので、本当に悔しいです。我々はカスタマーレーシングカーとして、部品の強度や耐久性を把握する責任があると思いコンストラクターとして、各部品を実走行により把握し、それをライフ管理や設計にフィードバックがスタイルでした。しかし、今回は振動数が特殊なオートポリス、車両重量増などの要因に向け、このトラブルを事前に予知できていなかった自分の知見の低さに猛省しております。何より、ドライバーに怪我させなくて本当に良かったです。今回の件を真摯に受け止め、重要部品の耐久試験方法や解析の仕方を各位から学び、リスクヘッジの中でより良い部品開発につなげたいと思います。今回は、小山選手に怪我が無かったのが一番で、更にうまくコントロールし車両を止めてくれたので損傷も軽かったのも幸いでした。次のもてぎは2連戦ですので、気持ちを切り替えて、しっかり準備し、襟を正して臨みます」